

「ゆいむん」の世界観 — 「ゆんぬ」 (与論島) からの発想 —

報告者 **堀 信行**

東京都立大学 名誉教授
南島文化研究所 特別研究員

専門は環境地理学。日本、アフリカ、南太平洋でサンゴ礁や自然景観の形成史、および人間と自然の関係性を基軸に景観論や風土論の研究。

司会 **崎浜 靖**

南島文化研究所 所長

【報告概要】

与論島の島民は、自身の島を「ゆんぬ」と呼び、島の東部のイノー(礁湖)内の洲島を「ゆりがはま」と呼んだが、地名は「百合ガ浜」と書かれた。これらの呼称は、海の彼方からの「ゆいむん」または「ゆりむん」、すなわち「寄り物」に由来する。「彼方から霊力を帯びた「モノ」が寄ってくる」ことに思いを馳せる精神性は、水平方向を基軸とする異界につながる自然への憧憬であり、畏怖であり、その世界と交流し、循環する心でもある。こうした霊力の循環思想の捉え方は、与論島に限らず、奄美・沖縄地域で一般的に見いだせる。さらには、日本文化の基層にある考え方のように思われる。これらのことを「ゆいむん」の世界観として論じてみたい。

日時 2020年2月10日(月)
16:20～17:50

場所 沖縄大13号館1階 会議室

参加無料 / 事前申込み不要

※ 聴覚障害等のある方で、情報保障の必要な方は、3週間前までに、下記の連絡先までお問い合わせください。

■ 問い合わせ

沖縄国際大学 総合研究機構 南島文化研究所
電話098-893-7967 E-Mail : nanchr@okiu.ac.jp